

指定管理者評価シート

事業名	こども劇場管理運営	所管課(電話番号)	子ども未来局子ども育成部 子どもの権利推進課(211-2942)
-----	-----------	-----------	-------------------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市こどもの劇場「やまびこ座」	所在地	東区北27条東15丁目
開設時期	昭和63年6月	延床面積	1495.37㎡
目的	人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他活動に資する。		
事業概要	人形劇等の制作・発表の場の提供、人形劇等の制作に関する指導ならびに資料収集・提供情報、講演会・展示会・講座		
主要施設	ホール、会議室(1室)、研修室(1室)、美術工作室(1室)、ロビー・展示室		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和4年(2022年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：札幌市こどもの劇場「やまびこ座」は、全国でも数少ない子ども専用劇場として、子どもを対象とした人形劇、児童劇等を専門に取り扱う施設であるという特殊性から、指定管理者には貸館業務にとどまらず、専門的知識や豊富な経験を有する適正な人材を確保し、指定管理者自らが人形劇、児童劇等の制作及び発表を行うこと、並びに担い手である制作団体を育成することが求められ、特に担い手の育成については専門性と継続した取組が不可欠であるため。		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	施設維持管理業務、事業の計画・実施業務、施設の使用承認業務等		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 平成30年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼ 「未来ある子どもたちの夢をはぐむ劇場づくり」札幌市こどもの劇場やまびこ座は、『人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること』を目的に設置された施設である。</p> <p>全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇等に親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 人形劇や演劇等の子どものための舞台表現活動を行う団体に対して広く開かれ、優れた作品を安価で上演できる劇場運営を基本方針とし、劇場の職員として、子どもとその家族が中心の観客を温かく迎え入れる役割を持つと同時に、そこで上演する団体の支援者となることに努めた。</p>	<p>施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい温かな雰囲気劇場作りに努めた。</p>	<p>A B C D</p> <p>施設の設置目的及び役割等踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。</p> <p>また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を供いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。</p> <p>今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。</p>

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ 環境行動マニュアルに基づき、環境を意識して業務を推進した。
冷暖房の小まめな入切や温度設定等を行い、エネルギー使用量の削減に努めるなど、職員による環境配慮行動の徹底を図った。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼ 統括責任者を1名配置した。
▼ 事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。

▼ 人材育成

(1)派遣研修(劇場運営関係)
国内外の人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門性向上に努めた。

・被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」における職員派遣

- ①6月7日(木)～11日(月) 職員2名
- ②9月4日(火)～8日(土) 職員3名
- ③10月24日(水)～25日(木) 職員1名
- ④11月26日(月)～12月3日(月) 職員2名
- ⑤12月13日(木)～23日(日・祝) 職員4名
- ⑥2月26日(火)～3月4日(月) 職員2名

・厚真町・被災地支援活動

- ①9月15日(土) 職員3名
- ②9月29日(土) ※コーディネート
- ③10月21日(日) ※コーディネート
- ④10月31日(水) 職員1名

・ノボシヴィルスク人形劇交流公演
9/29～10/7 (職員3名)

・第9回砂川人形劇フェスティバル
3/15～17 (職員3名)

・「こども文化セミナー」参加

実施日 9/13、10/20、12/24(職員5名)

(2)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修

- ・危機管理研修
- ・階層別研修(係長研修等)
- ・目標設定に係る面談
- ・実務研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 月1回の定例的な職員会議を実施し、情報の共有及び業務の改善、事業の見直しを行った。また、日常的に情報を共有できるよう、コミュニケーションの円滑化に努めた。

▼ 日常業務のブラッシュアップを全職員で行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の再確認を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

《再委託業務の実施状況》

業務名	契約業者名	実施月	契約方法
1 清掃業務	東亜産業株式会社	4～8月	指名競争入札

環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道、ガス等)の節約し施設運営に努めた。

札幌市こどもの劇場やまびこ座の管理運営業務を適切に行うため、人形劇や児童劇、舞台、照明、音響に係る専門的職員をはじめ管理に係る職員を適正に配置し、組織整備を行った。

劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関係施設や各種事業に職員を派遣し、職員ひとり一人が創造者として利用者に関わるべく多様な場にて自己研鑽に努めた。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員資質向上へ向けて研修を実施し視野の拡大を図った。

施設の良好な維持管理のため、11業務について再委託を行った。

策定した計画に基づく節電等への取り組みが行われている。

管理運営組織は適性に確立されており、緊急時の体制も整っている。派遣研修に関しては、子どものための専用劇場という特異な施設であることを念頭において十分な事業が実施されている。

加えて、指定管理者としてふさわしい資質を備えた職員育成のための研修についても実施されている。今後も継続して、職員の資質を向上させ、利用者満足等に反映されるように努めること。

引き続き、情報共有や日常業務の見直し改善を継続するとともに、管理水準の維持向上に努めていくこと。

第三者に対する委託業務等の管理については適切に行われていることから、今後も継続して、施設の良好な維持管理に努めること。

2	機械警備業務	帝国セキュリティ株式会社	4～8月	指名競争入札(複数年)
3	自動扉保守点検業務	三和シャッター工業株式会社	5月	随意契約(少額)
4	空調衛生設備保守点検業務	株式会社日立ビルシステム	6月	随意契約(特命)
5	オーバースライダードア保守点検業務	三和シャッター工業株式会社	5月	随意契約(特命)
6	消防用設備等保守点検業務	株式会社ヤマ保全	4・8月	随意契約(少額)
7	舞台吊り物及び照明設備保守点検業務	株式会社池下電設	7・8月	随意契約(特命)
8	舞台音響設備点検業務	株式会社池下電設	7・8月	随意契約(特命)
9	除排雪業務	※実績なし		
10	自家用電気工作物保安管理業務	大崎電気管理事務所	4～8月	指名見積合せ
11	じん芥収集業務	一般財団法人札幌市環境事業公社	4～8月	随意契約(特定)

▼ 上記11業務について再委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。

その他 建築基準法12に基づく点検
・建築構造等の点検及び建築設備の点検実施(8月)

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回運営協議会 11月7日	・平成30年度上半期事業実施報告 ・要望事項検討、協力依頼
利用者説明会 12月12日	・平成31年度事業についての説明 ・要望事項検討、協力依頼
業務・財務検査 3月6日	・業務報告及び計画、進行状況説明 ・業務・財務検査
第2回運営協議会 3月20日	・平成30年度下半期事業実施報告 ・要望事項検討、協力依頼
<p><協議会メンバー></p> <p>札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会会員、小樽商科大学特任名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市子ども人形劇場館長</p>	

運営協議会にて、協議会メンバーへ事業実施報告を行い、更に利用者からの要望検討や意見交換を行った。利用者からの生の声を聴くことで、運営上の改善点や相互協力方法を改めて確認し合う有意義な場となった。また札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。

運営協議会や利用者説明会を実施し、利用者のニーズ把握に努めており、評価出来る。また、有識者からの意見も取り入れることで、事業の充実を見込むことが出来ており、引き続き、関係機関との連携を図り、より良い施設運営につなげていくよう努めること。
業務・財務検査の結果、適正な事務処理がなされていることが確認された。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計検査を導入している。

▼ 現金等の取扱いについては、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会財務規程に基づき、適正に処理を行っているほか、現金等取扱規程を整備し、事故、不祥事を未然に防ぐように努めている。

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 要望・苦情対応については、マニュアルを作成し、職員に周知している。 ▼ 市民からの要望・苦情については、意見箱を設置し、常日頃から市民の声を聞くことができる環境を整えている。平成30年度について、要望・苦情はなし。 <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 常日頃から業務実施に関する記録、帳簿等の整備、保管に努めている。(業務日誌、文書管理簿、事業計画書及び事業報告書、収支予算書及び収支決算書、現金出納簿等) ▼ 劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。 	<p>市民から寄せられた要望、苦情等については、迅速かつ適切に処理できるよう事務フローを作成し、対応している。</p>	<p>意見箱を設置し、利用者からの声を施設運営に反映させる仕組みが整えられている。引き続き、マニュアル等を活用しながら要望・苦情に迅速かつ適切に対応すること。</p> <p>記録・帳簿等の整備、保管、事業等の報告については適切に行われている。</p> <p>また、利用者のニーズを的確に把握するよう努めており、評価できる。</p>																
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ▼ 職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ▼ 法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出た。 ▼ 労働者の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入。また、必要に応じて適正に届出等を実施した。 ▼ 常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ▼ 全ての労働者を労災保険に、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ▼ 法令上義務付けされていないが、法人として自発的に全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。 ▼ 業務内容に応じたシフト制勤務と、職員間連携を徹底することで時間外労働時間軽減に努めた。 	<p>労働関係法令に関する理解を深めるとともに、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">労働関係法令順守のための取り組みが積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取り組みも進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令順守及び雇用環境の維持向上に努めること。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	労働関係法令順守のための取り組みが積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取り組みも進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令順守及び雇用環境の維持向上に努めること。											
A	B	C	D																
労働関係法令順守のための取り組みが積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取り組みも進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令順守及び雇用環境の維持向上に努めること。																			
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 毎日の点検、見回りを行っており、安全確保に努めている。 ▼ 拾得物の取扱いについては、遺失物法及び民法の一部に基づき、事務フローを作成し職員間で取扱いについて再確認し、適正な取扱いを行った。 ▼ 損害賠償保険は仕様に適合したものに加入した。 <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 上記の11業務は再委託を行い、実施した。 ▼ 敷地内の植木については、普段から美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。 	<p>日常的に、適切な維持管理を行っている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">また、防災については、防災計画を定め、訓練を行うなど、日頃からの備えを十分にしている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。				また、防災については、防災計画を定め、訓練を行うなど、日頃からの備えを十分にしている。				引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。			
A	B	C	D																
専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。																			
また、防災については、防災計画を定め、訓練を行うなど、日頃からの備えを十分にしている。																			
引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。																			

▼ 下記の項目について、札幌市の承認を得たのち、随時修繕を行った。

《修繕工事の実施状況》

修繕内容		修繕完了日
1	ブラインドカーテン修理業務	4/19、5/9、5/30

▼ 駐車場内での事故等に十分注意し、利用者以外の進入がないよう、車両の監視、誘導等に努めた。

▽ 防災

▼ 防災計画を策定するとともに、6月に訓練を実施した。
避難訓練実施…6/22(参加人数9名)

日頃より、駐車場を利用する車両や安全に対するの監視を行い、劇団利用者へは注意、安全確認を促した。

災害や利用者の傷病に対する対応については、常日頃より気を配り、突発的な事態にも対応できるよう事前の準備に職員で取り組み、不測の事態に備えている。

(4) 事業の計画・実施業務

▽ 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務

【公演事業】

▼ やまびこ座が30周年を迎え、札幌国際人形劇フェスティバル、プロデュース人形劇をはじめとし、普段では観ることができない海外、全国多数の劇団による公演事業、ワークショップを実施した。また、劇場の専門スキルを活かし、他団体やアーティストとの関わりによって、これまでにない作品づくりの視点から、30周年記念制作の野外巨大人形劇「テンペスト」を制作した。より観客と触れ合うことが実現したことで、劇場に足を運ぶことのなかった市民の方々への興味、関心を引き出すことにつながった。

主な公演	ステージ数	観客数
やまびこ座プレ30周年企画 人形劇フェスティバル	4	273
やまびこ座プレ30周年企画 児童劇まつり	1	125
夏の特別公演	3	380
札幌国際人形劇フェスティバル	8	849
やまびこ座プレ30周年企画 人形劇フェスティバル	4	629
その他公演事業	76	6,257
計	96	8,513

【講座事業】

育成事業は、人形劇、児童劇、人形浄瑠璃を中心にこぐま座と連携して実施した。初心者のための人形劇講座は、昼コースをやまびこ座で実施。新規劇団の育成、人形劇文化の担い手の育成を行った。東区市民劇団育成事業は、地域に根ざす市民劇団として3月に児童劇のプロデュース公演を実施した。

また、人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会については、共催団体である「さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座」と協働し、札幌における文化の担い手を養成した。

道内外だけでなく海外の人形劇団を招へいすることで、子どもたちをはじめとした市民が上質な作品に触れる機会を提供することができた。

今年度も継続して人材育成事業に注力した。人材育成を根幹とした取り組みは全国的にも注目されており、今後も子どもから大人まで、より多くの市民が関わっていける受け皿を構築することで、札幌の文化

A	B	C	D
---	---	---	---

大人向け、子ども向け両方の事業を実施するとともに、道内外及び海外の人形劇団による公演を取り入れるなどしており、児童文化の普及や、子どもの健全育成、担い手の育成に努めている。
昨年に引き続き、児童会館へ職員を派遣し、人形劇クラブの指導及び育成を行うことは、人形劇の裾野拡大において有意義である。
市民や企業等との連携を図り、協賛を得て事業を実施していることを評価する。

安定的かつ魅力的な公演を提供できるよう、新規劇団の育成に関する支援を継続すること。

(延べ人数)		
主な事業	回数	参加人数
初心者のための人形劇講座	14	150
東区市民劇団育成事業	25	400
人形浄瑠璃講習会	25	244
義太夫講習会	28	334
計	92	1,128

【子どもの舞台表現活動の推進】

子ども対象事業は、通年事業として伝統文化関係事業(ざ・にんぎょうじょうりユースクラス、義太夫講習会中高生の部)、演劇関係事業(やまびこ座遊劇舎、劇☆やまびこ座YOUTH)を実施した。ざ・にんぎょうじょうりユースクラスと義太夫講習会中高生の部を同時に実施。短期体験型としてはこども舞台体験プログラム『ふれアート』(人形浄瑠璃体験)を実施し、専門の講師による本物の舞台体験機会を数多くの子どもたちに提供することができた。

過年度に引き続き札幌市内の児童会館(6館)と連携し、人形劇クラブの指導及び育成を行った。各児童会館の子どもたちだけでなく、中心となって関わる児童会館指導員の専門性を高める事業となっている。

(延べ人数)			
	講座名	H29実績	H30実績
1	やまびこ座遊劇舎	839	798
2	劇☆やまびこ座YOUTH	671	545
3	ざ・にんぎょうじょうりユースクラス	219	443
4	こども舞台体験プログラム「ふれアート」	123	162
5	砂川人形劇体験プログラム	530	687
6	人形劇クラブの指導および育成	1,453	1,037
	計	3,835	3,672

【地域との共生および関係機関との連携】

連携事業として「元町北小学校アウトリーチ事業」で地域小学校への指導者派遣、「砂川人形劇指導」など、他施設への人形劇等の指導を実施した。また、地域の町内会や企業、諸団体と連携し「やまびこ座夏まつり」を実施した。地域に愛され地域に根付いた施設として、今後も地域組織と協働して事業を実施していく。

やまびこ座30周年記念制作の野外巨大人形劇「テンペスト」では、これまでにない作品づくりの視点から、より観客と触れ合うことが実現したことで、劇場に足を運ぶことのなかった市民の方々への興味、関心を引き出すことにつながった。また、雪まつり関連事業として、雪のステージと雪像を舞台に冬の野外人形劇を上演。中島公園のロケーションを活かし観光振興も視野に入れた取り組みを行い、市民のみならず広く、やまびこ座・こぐま座両施設のPRに努めた。

の将来を担う人材育成へとつなげていく。

各事業に参加した子どもたちが、生き生きと舞台表現活動に取り組み成果をあげている。また、他都市や対施設へと拠点を増やすことにより、人形劇の裾野を広げることにつながっている。

子どもが人形劇等の舞台芸術等に触れるきっかけとなる体験プログラム事業とともに、より本格的に人形劇等の制作等を学ぶことができる通年事業を行うことは、児童文化の発信拠点として相応しく、高く評価できる。

30周年記念事業や今年度の連携事業実施により、「地域に開かれた劇場運営」に向けて実績を積み上げることができた。

地域と連携した多くの行事を通じて、子どもから大人までの多くの市民が劇場に集い、地域に開かれた親しみある劇場として評価できる。

▼ 劇場の公演活動の充実や劇団支援、地域連携の活性化を目的として協賛金を募る「事業サポーター制度」を実施。
結果、11件の劇団・個人からの協賛と、3件の企業協賛を得た。

市民とともにつくる劇場、地域に根差した劇場運営の観点から、一定の成果が表れていると捉え、今後もこの取り組みを継続、強化していく。

▽ 子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

▼ 札幌市内及び北海道内における児童文化関係団体や人形劇協議会等の活動調査、全国の公立人形劇場、児童文化活動の調査を行い、広い視野に立った子どものための舞台活動の研究に努める。また、関係機関の情報収集に努め、資料の整理を随時行い、市民からの要望があれば、閲覧可能とした。

やまびこ座、こぐま座で活動する市民劇団の協力を得て、札幌の人形劇を被災地に届けることができた。文化支援を通し、子どもたちを笑顔にすることが、周囲の大人の活力となり、コミュニティの支援につながっている。また、支援する側にとっても、自分たちの取り組みが持つ、社会的意義につながっていることを実感する機会となっている。

関係団体等の調査や情報収集、資料の公開等、舞台活動の拡充に取り組みされており、評価できる。

引き続きプロデュース人形劇をはじめ、市民ニーズを捉え、人形劇文化の発信に努めること。

▼ 被災地支援活動を継続実施した。5月のゴールデンウィークにやまびこ座、こぐま座にてチャリティー公演を実施し、6月、9月、10月、11月、12月、2月に福島県内各施設(幼稚園、保育園、公共施設、仮設住宅等)にて人形劇、人形浄瑠璃の公演や人形劇の体験機会、地域交流イベントを提供した。また、9月の北海道胆振東部地震発生後は、厚真町への支援活動も実施した。今後も両劇場ができる人形劇や子どものあそびを中心とした文化活動が、少しでも子どもたちの心のケアや人々や地域の活性化につながっていくよう息の長い支援を行っていく。

▼ 昨年度から引き続き、オホーツク文化について調査研究を行っている北海道大学との共同連携により、プロデュース作品である北海道の人形劇シリーズ『OKHOTSKー終わりの楽園』の上演及び、大学関係者に向けた講演事業を実施した。北海道の史実や各地域に伝わる民話などを題材とすることで、北海道の歴史や文化への興味、関心を深めてもらうとともに、両劇場のPRの機会にもつながった。

人形劇という想像の枠を超え、人形劇の可能性を広げるものとなった。人形劇が子どもだけでなく、芸術性豊かな作品として大人へも感動を与える作品となった。

▼ 3月に砂川市地域交流センターゆうで実施された砂川人形劇フェスティバルに参加。こひつじ座による「あらしの夜に」や、やまびこ座・こぐま座プロデュース、北海道の人形劇シリーズPart1「奇跡の庭〜じかん島のひみつ」を上演した。

▽ 劇団育成支援に関する業務

▼ 劇団支援策として「札幌市こどもの劇場やまびこ座支援事業」を実施した。各劇団のホール・研修室・美術工作室・会議室利用について、使用料の一部を負担した。

※申請件数50件、利用区分件数146件

▼ 12月に利用者説明会を開催し、劇団側からの要望を直接聞く場となった。

劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。利用者説明会を実施し、劇場と劇団で思いを共有することができた。

▼ 市民ボランティア登録者が34名。読み聞かせ、スタンプラリー指人形制作、公演時の受付・会場整理、公演前後のパフォーマンス、夏まつり等の事業スタッフとして活躍いただいた。

(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 人形劇等に関する指導、相談業務</p> <p>▼ 人形劇、演劇等の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日頃から人形劇、児童劇等について、指導、助言ができる体制づくりに努めている。公演時や練習時等において、アドバイスをを行い、劇団側と協働してより良い作品づくりを目指している。また、各種講座等を実施し、より多くの市民の方々が児童文化に携わり、担い手として育つことができる環境を整えている。</p>	<p>公演に向けての練習やりハーサル、製作など、普段からアドバイスを継続的に行うことで劇団側と信頼関係を築き上げ、より良い作品創造に繋げることができた。</p>																																																																																																								
	<p>▽ 利用件数等</p> <p>▼ 公演回数・観客数 (回・人)</p> <table border="1" data-bbox="384 539 979 757"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29実績</th> <th>H30計画</th> <th>H30実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上演回数</td> <td>222</td> <td>85</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>出演者数</td> <td>11,141</td> <td></td> <td>5,519</td> </tr> <tr> <td>観客数</td> <td>19,335</td> <td></td> <td>8,513</td> </tr> <tr> <td>上演1回当たりの観客数</td> <td>87.1</td> <td></td> <td>89.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>▼ 室別利用状況 (件)</p> <table border="1" data-bbox="384 931 979 1671"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H29実績</th> <th>H30計画</th> <th>H30実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ホール</td> <td>件数(件)</td> <td>682</td> <td>280</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>30,476</td> <td>11,200</td> <td>14,032</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>79.5</td> <td></td> <td>73.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">会議室</td> <td>件数(件)</td> <td>411</td> <td>160</td> <td>187</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>4,395</td> <td>800</td> <td>1,884</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>47.9</td> <td></td> <td>50.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研修室</td> <td>件数(件)</td> <td>577</td> <td>220</td> <td>227</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>9,894</td> <td>3,040</td> <td>4,856</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>67.2</td> <td></td> <td>61.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">美術工作室</td> <td>件数(件)</td> <td>639</td> <td>220</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>8,997</td> <td>2,800</td> <td>3,996</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>74.5</td> <td></td> <td>69.3</td> </tr> <tr> <td>ロビー等</td> <td>人数(人)</td> <td>10,518</td> <td>4,000</td> <td>3,526</td> </tr> <tr> <td>研修見学</td> <td>人数(人)</td> <td>23</td> <td>160</td> <td>1,920</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>件数(件)</td> <td>2,309</td> <td>880</td> <td>938</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>64,280</td> <td>22,000</td> <td>30,214</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 主催事業、主催公演の際、他の公演、事業への呼びかけを行い、宣伝等に努めた。</p>		H29実績	H30計画	H30実績	上演回数	222	85	96	出演者数	11,141		5,519	観客数	19,335		8,513	上演1回当たりの観客数	87.1		89.0			H29実績	H30計画	H30実績	ホール	件数(件)	682	280	269	人数(人)	30,476	11,200	14,032	稼働率(%)	79.5		73.1	会議室	件数(件)	411	160	187	人数(人)	4,395	800	1,884	稼働率(%)	47.9		50.8	研修室	件数(件)	577	220	227	人数(人)	9,894	3,040	4,856	稼働率(%)	67.2		61.7	美術工作室	件数(件)	639	220	255	人数(人)	8,997	2,800	3,996	稼働率(%)	74.5		69.3	ロビー等	人数(人)	10,518	4,000	3,526	研修見学	人数(人)	23	160	1,920	合計	件数(件)	2,309	880	938	人数(人)	64,280	22,000	30,214	<p>やまびこ座は、平成30年9月から平成31年3月までの7か月間、大型改修工事のため休館となった。公演事業については、上演日数61日間、上演回数96回という結果ではあったが、30周年記念事業の実施により多彩なプログラムを提供することができた。その成果は、1ステージ平均90人弱という数字にも現れており、多くの市民が訪れた。</p> <p>施設利用区分件数による割合は、人形劇:児童劇=2:1の割合となった。人形劇だけでなく演劇や伝統文化の分野の施設利用があり、子どもたちに対し良い文化を提供することができた。</p>	<table border="1" data-bbox="1241 456 1445 495"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">平成30年度は、施設の大規模改修工事に伴う休館期間があったが、計画を上回る上演回数という成果を挙げている。また、市民ボランティアとの協力関係が構築されており、ともにサービスの向上に努めていることも高く評価できる。引き続き市民サービスの拡充をはかるとともに、公演の魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	平成30年度は、施設の大規模改修工事に伴う休館期間があったが、計画を上回る上演回数という成果を挙げている。また、市民ボランティアとの協力関係が構築されており、ともにサービスの向上に努めていることも高く評価できる。引き続き市民サービスの拡充をはかるとともに、公演の魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。		
	H29実績	H30計画	H30実績																																																																																																							
上演回数	222	85	96																																																																																																							
出演者数	11,141		5,519																																																																																																							
観客数	19,335		8,513																																																																																																							
上演1回当たりの観客数	87.1		89.0																																																																																																							
		H29実績	H30計画	H30実績																																																																																																						
ホール	件数(件)	682	280	269																																																																																																						
	人数(人)	30,476	11,200	14,032																																																																																																						
	稼働率(%)	79.5		73.1																																																																																																						
会議室	件数(件)	411	160	187																																																																																																						
	人数(人)	4,395	800	1,884																																																																																																						
	稼働率(%)	47.9		50.8																																																																																																						
研修室	件数(件)	577	220	227																																																																																																						
	人数(人)	9,894	3,040	4,856																																																																																																						
	稼働率(%)	67.2		61.7																																																																																																						
美術工作室	件数(件)	639	220	255																																																																																																						
	人数(人)	8,997	2,800	3,996																																																																																																						
	稼働率(%)	74.5		69.3																																																																																																						
ロビー等	人数(人)	10,518	4,000	3,526																																																																																																						
研修見学	人数(人)	23	160	1,920																																																																																																						
合計	件数(件)	2,309	880	938																																																																																																						
	人数(人)	64,280	22,000	30,214																																																																																																						
A	B	C	D																																																																																																							
平成30年度は、施設の大規模改修工事に伴う休館期間があったが、計画を上回る上演回数という成果を挙げている。また、市民ボランティアとの協力関係が構築されており、ともにサービスの向上に努めていることも高く評価できる。引き続き市民サービスの拡充をはかるとともに、公演の魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。																																																																																																										
		<p>使用承認については、条例に基づき適正に処理を行なった。</p>																																																																																																								

<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 大型改修工事による7か月の休館にも関わらず、ホームページのアクセス数は53,261件で、前年度の52,556件と比べて102%という結果になった。また、新規のアクセスが80%と、前年よりもやや増加した。こぐま座と共に30周年記念事業を実施し、多岐に渡る記念事業を実施できたことによる効果と思われる。しかし、リピーターが総アクセス数の約2割にとどまっている状況を考えると、施設や事業の周知方法やページの作成、更新数等の工夫が必要である。また、30年度にホームページリニューアルを機に、ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページ作成を目指した。 ▼ 希望者にはメール通信を発行し、主催事業などの広報を行った。 ▼ Facebook、TwitterなどSNSによるリアルタイムでの情報発信を行った。 ▼ 定期的に(年6回)劇場通信(公演情報、事業案内等)をこぐま座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校4校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。 ▼ 公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、館内掲示を行った。 ▼ (公財)さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」に、公演情報を毎号掲載した(年6回発行)。 <p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>	<p>広報活動は、劇場業務の中でも重要な役割を担っており、利用人数に大きく反映されるものである。30年度については、30周年記念事業を大々的に実施できたことにより、メディアやチラシ、ポスター等の媒体で多くの市民に情報発信ができ、利用人数、観客数の増加につながったといえる。</p> <p>次年度もリニューアルしたホームページ等をうまく活用し、誰でもわかりやすく、興味を引くページの作成、情報のフレッシュさを大切に、更新頻度をあげていく。</p> <p>劇場通信やチラシの新たな配布先を検討し、ニーズに合った媒体を選択できるように検討していく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。																			
A	B	C	D																								
利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。																											
<p>2 自主事業その他</p>																											
<p>▽ 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 物品販売事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民サービスの一環として人形キット、ハンドパペット、オリジナルグッズの販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助、リピーターの確保等につなげ、公演の活性化を図る。 実施期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日 販売商品： <ul style="list-style-type: none"> ①手作り人形キット 金額：300円～500円 ②ハンドパペット 金額：500円～600円 ③オリジナルグッズ・書籍 金額50円～1,785円 【販売実績】 <ul style="list-style-type: none"> ①手作り人形キット：販売個数63個 売上額32,500円 ②ハンドパペット：販売個数89個 売上額56,200円 ③オリジナルグッズ・書籍：販売個数168個 売上額41,250円 総合計：販売個数320個 売上額129,950円 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 <ul style="list-style-type: none"> ・再委託、物品の調達等を行うに当たり、札幌市内の企業等を積極的に活用している。また、夏まつりにおいて、近隣の福祉施設と連携し福祉施策への配慮に努めた。 	<p>市民サービスの一環として当事業を開始し、10年目を迎えた。前年度に引き続き販売商品の製作等、他団体の協力を得て実施した。今年度は30周年記念事業に特化した商品も加えて、好評を得た。今後も市民ニーズに合わせて新たな商品開発を行うなど、こぐま座観劇の記念に残る品物を販売ができるよう取り組んでいく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 子どもが劇場、人形劇等の活動に対して、興味を持つことにつながる事業である。また、今年度は、商品を増やす取り組みにより、売上げ増加につながり、評価できる。引き続き、利用者のニーズも取り入れながら、より発展させることに努めること。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	子どもが劇場、人形劇等の活動に対して、興味を持つことにつながる事業である。また、今年度は、商品を増やす取り組みにより、売上げ増加につながり、評価できる。引き続き、利用者のニーズも取り入れながら、より発展させることに努めること。				引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 子どもが劇場、人形劇等の活動に対して、興味を持つことにつながる事業である。また、今年度は、商品を増やす取り組みにより、売上げ増加につながり、評価できる。引き続き、利用者のニーズも取り入れながら、より発展させることに努めること。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	子どもが劇場、人形劇等の活動に対して、興味を持つことにつながる事業である。また、今年度は、商品を増やす取り組みにより、売上げ増加につながり、評価できる。引き続き、利用者のニーズも取り入れながら、より発展させることに努めること。				引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。			
A	B	C	D																								
子どもが劇場、人形劇等の活動に対して、興味を持つことにつながる事業である。また、今年度は、商品を増やす取り組みにより、売上げ増加につながり、評価できる。引き続き、利用者のニーズも取り入れながら、より発展させることに努めること。																											
引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。																											
A	B	C	D																								
子どもが劇場、人形劇等の活動に対して、興味を持つことにつながる事業である。また、今年度は、商品を増やす取り組みにより、売上げ増加につながり、評価できる。引き続き、利用者のニーズも取り入れながら、より発展させることに努めること。																											
引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。																											

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、平成30年4月～平成31年3月の期間で実施した。(※アンケート方法については、来館者へアンケート用紙を配付し、回収した。記名方式。)
結果概要	アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理している。
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【観客用アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収1,186枚 ・回答者の年代は、小学生が2割、子育て世代の40台が1.5割と多いほかは、偏り無く回答いただいた。 ・公演情報の取得方法としては、「友人、知人」のロコミが最も多い(32%)結果となり、ウェブ媒体を凌ぎ、「チラシ・ポスター」が次いで選ばれていることから、劇場通信も含めた紙媒体での定期的な広報が有効であるとの結果となった。 ・観劇環境については、職員の対応が99.8%、劇場の設備についても99.0%がとても良い、良い、ほぼ満足している(「とても良い」「良い」「普通」の合計)との高い評価を得ることができた。 ・初めての来館者が26.4%で、他はリピーターである。中でも11回以上の来館者が18.2%と高い割合で推移している。スタンプラリーや、たのしませ隊事業による成果が出ていると考えられる。 <p>【利用者(劇団)アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収10枚(回収率62.5%:公演実施16劇団中10劇団) ・施設サービスについては、無記入を除いて、職員の対応・施設の利用しやすさともに100%の方から、とても良い・良い・ほぼ満足している(「とても良い」「良い」「普通」の合計)との評価を得ることができた。 ・劇場職員への感謝の言葉や、親切な対応に対する評価を多くいただいた。 <p>【事業別参加者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催事業より、11事業(東区市民劇団育成事業、遊劇舎、劇☆やまびこ座YOUTH、こども舞台体験プログラム「ふれアート」2事業、プロデュース公演、風雲やまびこ城、初心者のための人形劇講座、人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会、にんぎょうじょうりゆうリユース、)についてアンケートを実施した。 ・事業内容については、無記入を除き、参加者の全てがとても良い、良い、ほぼ満足している(「とても良い」「良い」「普通」の合計)との評価をしており、内容については十分に満足してもらえたことが伺える。また、職員の対応や講師についても、無記入を除くと全ての参加者がとても良い、良い、ほぼ満足している(「とても良い」「良い」「普通」の合計)との評価だった。参加者、講師、職員がそれぞれ良好な関係を築くことができたことで事業内容の充実感につながったと考えられる。

アンケート結果から全体的に見て、総合満足度や接遇に関する満足度もほぼ100%と好評であった。これに甘んじることなく、今後も継続して市民サービスの意識を高め、利用者のニーズを把握し、観劇する環境をソフト面でもハード面でも充実させていきたい。	A	B	C	D
<p>広報手段として来館者のロコミ情報が最多であることから、単方向の情報提供よりも双方向の情報共有が今後、望ましいと考える。ホームページやメール通信など単方向になりがちなツールを、双方向のやり取りが出来るようなものに変化させていくよう工夫していく。来館した方がまた来たいと感じる劇場づくりに努めていきたい。</p>				
<p>どの公演でも作品内容についての感想を書いてくれる方が多い。また、観客のニーズを劇団側に伝えることで、今後の作品創りに活かすようアンケートを活用していきたい。</p>				
<p>劇団アンケートの結果から、職員の対応や支援体制について高い評価をいただいた。今後も引き続き、利用者職員がよりよい関係を築いていけるよう支援していきたい。</p>				<p>観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。 アンケートの結果からは、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、少数の意見も拾い上げて、より良い施設となるよう努力すること。</p>

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	H30計画	H30決算	差(決算-計画)
収入	67,423	73,981	6,558
指定管理業務収入	67,323	73,851	6,528
指定管理費	43,668	43,668	0
利用料金	2,500	1,327	▲ 1,173
その他	21,155	28,856	7,701
自主事業収入	100	130	30
支出	70,423	72,720	2,297
指定管理業務支出	70,358	72,594	2,236
自主事業支出	65	126	61
収入-支出	▲ 3,000	1,261	4,261
利益還元	35	92	57
法人税等	0	0	0
純利益	▲ 3,035	1,169	4,204

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入は、施設の大規模改修工事により、休館期間相応の減収となった。
- ▼ その他収入は、30周年記念関連事業の助成金の獲得や、事業実施に伴う入場料収益が当初予算から純増となった。
- ▼ 指定管理業務支出は、30周年記念関連事業の実施により、当初予算から増額となったが、他経費の支出の抑制により収支バランスを取り予算執行した。
- ▼ 自主事業における利益還元が92千円であった。

次年度以降についても公的助成の積極的な活用や地元民間企業や市民からの協賛金を募るための事業サポーター制度を引き続き実施していく。今後も、安定的に事業費の確保を目指す方針を検討する。

他団体と事業の共催・協働実施、連携による事業展開により、収益確保に繋がっている。今後も将来を見据えた事業展開を意識しながら他の関係機関・団体との連携を強化していきたい。

A	B	C	D

休館の影響で、利用料金は減っているが、事業に関する収入が伸びており、全体的な収支状況が改善されたことは評価できる。
引き続き安定的な運営に向け、改善を続けること。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

- ▼ 当団体の財務状況等は、各事業実施時において収支バランス等を常に把握することで、将来へ向けた安定経営能力は選定時より向上している。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼ 情報公開請求はありません。
- ▼ 札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行っております。
- ▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>平成30年度は、やまびこ座が30周年を迎えた記念の年であった。人形劇場こぐま座とともに多岐に渡る記念事業を実施できたことは、これまで40年間以上、両劇場が築き上げてきた人材育成を柱に据えた運営実績の賜物であり、全国からの期待度を再確認する良い機会ともなった。これからも子ども文化施設の先駆けとして、全国、世界レベルでの発信を続けていく。また、姉妹都市であるノボシビルスクから招へいを受け、国際交流事業として劇場で育成する大学生を派遣。若い人材が、国際的な文化交流をととして得た貴重な経験により、将来における札幌の財産となることを期待する。また、継続して取り組んできた砂川市や札幌市児童会館における子どもたちへの人形劇クラブ育成への取り組みは10事業に増え、劇場の役割の一つとして子ども文化の裾野を広げる効果が着実に始めている。さらに、一体運営をするこぐま座、中島児童会館に、資料室「MA・SO・BO」を開設することができた。次年度70周年を迎える中島児童会館とともに両施設が担ってきた役割を再認識し、子ども健全育成の中心拠点としてその歴史と功績を全国的にPRしていくことも含め、今後の新たな事業展開の実現が可能となった。</p> <p>将来的に子どもの人口が減っていく中で、文化、芸術における社会的な価値を見出し、やまびこ座、こぐま座の役割を今後どのように発信していくのが重要なカギとなる。そのような意味でも30年度は、様々な文化関連団体や大学、各専門アーティスト、他ジャンルの方々との関係性を構築することができ、人形劇をはじめとした札幌の子ども文化、両劇場の価値をあらためて知らしめることができ、第4期指定管理のスタートとしてふさわしい年となった。</p> <p>①やまびこ座は、2018年9月～2019年3月までの7カ月間、大型改修工事のため休館となった。公演事業については、上演日数61日間、上演回数96回という結果ではあったが、30周年記念事業も重なり多彩なプログラムを提供することができた。その成果は、1ステージ平均90人弱という数字にも現れており、多くの市民が訪れた。また、人材育成事業については、休止せずにこぐま座、星園プラザ等において継続実施。場所が普段と違いやりづらは多少あったものの、継続する意味、重要性をあらためて再確認できた。</p> <p>②やまびこ座30周年記念事業では、札幌国際人形劇フェスティバル、プロデュース人形劇をはじめとし、普段では観ることができない海外、全国の多数の劇団による公演事業、ワークショップを実施。30周年記念制作の野外巨大人形劇「テンペスト」では、これまでにない作品づくりの視点から、より観客と触れ合うことが実現したことで、劇場に足を運ぶことのなかった市民の方々への興味、関心を引き出すことにつながった。</p> <p>③劇場の社会的な役割の一つとして継続的に実施している被災地支援活動は、これまで東北福島を中心に実施してきた。しかしながら昨年9月の北海道胆振東部地震発生後は、福島に加え、厚真町への支援活動を実施。両劇場ができる人形劇やあそびといった文化的な活動が少しでも子どもたちの心のケアにつながっていくよう息の長い支援を行っていく。</p>	<p>地域活動等事業</p> <p>1 夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり 劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを応援し、人や地域の活性化に繋げる。</p> <p>施設運営等事業</p> <p>1 人形劇等の裾野を広げていくための人材育成の取り組み 劇場の根幹である人材育成を柱に、時代のニーズに合わせ継続的かつ発展的な事業展開を図る。将来の札幌の文化発展を見据え、人形劇等の裾野を広げる事業を積極的に実施する。</p> <p>2 札幌の子ども文化の創造と発信による新たな可能性 子ども文化の創造・発信拠点としての中心的役割を担う。やまびこ座・こぐま座がプロデュースし、育成する劇団や専門アーティスト等との連携した取り組みによって、より良い作品の創造、普及に努める。また、国際交流や観光振興等を視野に入れた新たな取り組みによって、大きな可能性を秘めた事業展開に繋げていく。</p> <p>3 やまびこ座、こぐま座、中島児童会館との連携による事業の拡充 やまびこ座、こぐま座、中島児童会館という歴史的価値の高い、貴重な3施設が連携を図り、子どものための専門施設として、より効果的な運営を実現する。それぞれの施設の持つ特性を生かしながら、子どもの健全育成を踏まえた人材育成事業や全市民的なイベント事業等の拡充、特色ある事業内容を全国に向けて情報発信する。</p> <p>4 劇場スキルを生かした財源確保と効率的かつ効果的な運営 指定管理費と併せ、公的助成や民間資金の活用による発展的な事業展開を図る。また、劇場の専門スキルを生かした関係機関との事業連携や育成指導を積極的に図り、財源確保に繋げる。</p> <p>5 子どもの文化施設としての社会的役割と使命 全国でも数少ない子どものための公立文化施設として、やまびこ座への期待は非常に大きい。文化力による社会的役割を明確にし、未来ある子どもたちの夢と可能性を広げていくことが劇場の使命と考える。</p>

④平成30年度の収支状況については、やまびこ座30周年記念事業関連において、文化庁を始め多くの助成金等を獲得することで収支バランスを取ることができた。(助成総額 6件25,233千円)また、北海道大学や他団体との共催事業実施による事業収益獲得もその一因といえる。特に助成をいただいている文化庁や日本芸術文化振興会からのやまびこ座、こぐま座への事業の取り組みは高く評価されており、今後も時代のニーズに合わせた事業展開が重要課題である。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>施設の維持管理、貸館業務、事業の実施、自主事業、及び施設の管理運営については全般的に適切な業務の執行がなされている。</p> <p>人形劇を始め、演劇、伝統芸能、各種育成講座や被災地支援の文化活動など、幅広い事業展開をしており、札幌市の児童文化の拠点施設として、その普及・促進に取り組んでいると評価できる。</p>	<p>施設の設置目的を達成するため、今後とも制作団体の育成を行っていく必要があることはもちろんのこと、更なる利用者の増加及び収入の安定を図るため、引き続き市民ニーズを検証するとともに、より魅力的な創意工夫ある事業を展開していくこと。</p>